絵本を使った CAPD 導入の準備

山岸 敏身・藤沢 佳子・横須真由美

要 旨

5歳の慢性腎不全の男児がCAPDカテーテル留置の手術、およびCAPD導入目的で入院した。両親から入院や手術についての説明がされていた。入院後に、児の心理的準備不足が原因と思われた発熱や精神不安定がみられ、手術が延期となった。そこで、手術、CAPD導入について、手術前に、児の好きなキャラクターが登場する絵本を作成し、それを用いて児に説明を行った。絵本の使用により、今まで未知、恐怖であった手術やCAPD導入のことを、児が具体的にイメージすることができ、心の準備をすることができた。また、両親の不安も軽減できた。

I. はじめに

小児の入院や手術は保護者である両親によって決定される。しかし、子ども達は生活経験が少なく、認識の発達レベルにおいても理解力に限度があり、なぜ入院するのか理解できない。それにより入院、手術によって体験する出来事で恐怖や不安が増す。

今回、CAPD導入目的で入院をした5歳児に絵本を使用し説明を行った。その後、児の混乱がなく手術を迎え、CAPDを導入することができたので、経過を報告する。

II. 患者紹介

症例：5歳児。慢性腎不全。

長野赤十字病院 小児センター
(〒380-8582 長野県長野市若里5-22-1)
Preparation for the introduction of CAPD to use a picture book

Toshimi Yamagishi, Yoshiko Fujisawa, Mayumi Yokosu

Nagano Red Cross Hospital, Pediatric Center

入院までの経過

1歳の頃から尿検査でたんばく尿が認められ、定期的に検査を行っていた。3歳より進行性に腎機能が悪化し、5歳の時、CAPDによる透析治療開始目的で当院に入院となった。

CAPD導入の児の心理的状況と絵本による説明の経緯

両親、特に母が、児に腎臓が悪くいずれCAPDが必要になることを教えていた。しかし、入院日時については話していなかった。入院当日に当院の駐車場で、「今から入院する」と母が児に話した。入院日より原因不明の発熱や児の精神不安定な状態となり、翌日のカテーテル留置の手術は1週間延期となった。

これらのことから児の心理的準備が不足しており、なんらかの援助が必要と考えた。児は5歳という幼児期後期にあり、また、5歳児相当の学習能力や具体的な思考がみられた。そこで、CAPDや手術の説明をするにあたり幼児期後期の児には、馴染みのある絵本を作成することにした。

III. 絵本作成時のポイント

①両親から情報収集：絵本の内容と児が今まで聞いてきた説明とに相違がないようにした。

②児が受け入れやすい内容：

- ・児の好きなキャラクターを主人公として絵本を作成した。
- ・児がより絵本の内容と自分を重ねてみるができるように、絵本に登場するベッドなどを当院で使用しているものを描いた。

Key words : CAPD

絵本
心理的準備
両親の不安

IV. 絵本による説明と児と母の反応

カテーテル留置術2日前、児の病室で絵本を看護師が患児と母に読み聞かせた。児は、手術の場面では表情が硬くなったが、他の場面ではキャラクターの姿に喜び、笑って絵本を見ていた。母も笑顔で絵本を見ていた。「キャラクターも入院したね。○○ちゃんと一緒だね。」と児に話しかけていた。

手術当日、手術が決定すると児は泣き出したが、しばらく泣くと落ち着いた。看護師は絵本と同じように進めた。入室時は絵本と同じ黄色のベッドを使用し、手術室へ入室した。時々「キャラクターと一緒にだね」と児に声をかけた。緊張していたものの、暴れたり、嫌がったりする様子もなく、手術室へ入室できた。

手術2日後、自ら絵本を読みながら、「この場面が終わった。今はここでしょ？あと少しで終わりじゃん」と話す姿がみられた。母より「絵本を喜んで見ている」と情報も得た。

退院日、母から「腎臓やCAPDのことを教えてきたが、きっとあの子は手術や、自分がどういう姿になるかわかっていなかった。これからのことを絵本でわかり、理解できた。その様子を見て、私も今回の入院をのりこえられた。」との話があった。

V. 考 察

絵本を親子一緒に見てもらうことは、児の緊張感が和らぎ、さらに親と子が同じ情報を共有できた。また、児の好きなキャラクターが登場することで、キャラクターに喜び、目をそらすことなく絵本に集中できた。児の関心を絵本に向けることに成功した。児自身が手術やCAPDのイメージを作り、心の準備ができたと考える。

絵本の内容に沿うように同じ状況で入室した。児が予測できたことで一番の恐怖である手術入室までを大きな混乱もなくすごせた。手術後に絵本の登場人物を自分に置き換え、「今はこの場面でしょ？」場面が変わるたびに「ここは終わった」と、絵本の内容を自分のこととして受け止めている姿が見られた。児自身の達成感を得ることにつながった。

母の反応から、絵本を使用したことで、母が児に伝えきれなかった手術のことや、手術後の姿を具体的に伝えることができた。母の「児に伝わっていないのでは」という不安も軽減することができた。特に母親の心理状況は児の心理面に大きく作用するといわれている。母が安心したことで児の不安も軽減したと推測できる。

VI. ま と め

- ① 絵本の使用により、児は今まで未知・恐怖だった手術やCAPDについて、具体的にイメージすることができ、心の準備をすることができた。
- ② 両親が児に伝えきれなかった手術のことや、手術後の姿を伝えることができた。また、それにより両親の不安を軽減することができた。

文 献

- 1) 檜木野裕美、高橋清子：子どもに正確な知識をどのように伝えるか、小児看護 25(2)：193-196, 2002.
- 2) 内田雅代：プリパレーション後のフォローアップ、小児看護 25(2)：212-215, 2002.
- 3) 松尾順子、田中佳世子、長井由香：手術・処置を受ける幼児期の子どもへの援助、小児看護 25(2)：177-188, 2002.
- 4) 及川郁子：プリパレーションはなぜ必要か、小児看護 25(2)：189-192, 2002.

Preparation for the introduction of CAPD to use a picture book.

Nagano Red Cross hospital, Pediatric center.

Toshimi Yamagishi, Yoshiko Fujisawa, Mayumi Yokose

A 5-year-old boy with chronic renal insufficiency was admitted for the purpose of undergoing operation for CAPD catheter retention and introduction of CAPD. He had been explained by his parents about hospitalization and operation. After admission, fever and mental instability. Considered due to his insufficient psychological preparedness were noticed, so the operation was put off.

As such, a picture book on the CAPD introduction in which characters he likes appear was made before operation. He was explained about the CAPD introduction by this book. Using this book, the child was able to concretely image and mentally prepare himself about the operation and CAPD introduction which had been an unknown experience and a source of fear to him. Apprehensions of his parents were also mitigated.

Key Word : CAPD, a picture book, psychological preparedness, Apprehensions of patient parents